

ねじりはちまき

暑中お見舞い申し上げます

平素は格別なるお引立てを賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げますと共に今後共宜しくお願い申し上げます。

7月1日は山開きです。2日半夏生。7日七夕。13日お盆を迎えます。23日大暑。24日土用の丑の日です。

7月のことを文月と呼ぶのは、七夕の行事にちなみ、短冊に詩歌などの文を書き、書道の上達を祈ったことに由来するとされているそうです。また、稲の穂が育つころなので含月（フクミツキ）が、ふみづきに転じたとも言われています。

女郎花（オミナエシ）月とか、涼月（リョウゲツ）などの異名はすでに秋の風情を感じられるということですね。

いよいよ、これからが夏本番です。皆様、ご壮健で盛夏を乗り切られますよう、お祈り申し上げます。

幸田 常一



お世話になっております。
先月に引き続き、本宮市の現場でリフォーム工事をお世話になっております。こちらの現場はあともう少しで完成いたします。

シンボクリョコウ

私が38年余り勤めた職場のOBで組織する会（以下OB会）がありますが、私もその会の会員です。この会の目的は、「会員相互の親睦融和と福利を増進すると共に地域の安全に寄与する」とうたわれております。この目的達成の為、OB会では20年余り前から毎年1泊2日から2泊3日の日程で、親睦研修旅行を行っています。（私は10数年前から、毎年参加。）

今年の親睦研修旅行は、6月上旬1泊2日の日程で、F社の最新の大型バス（トイレ付）に乗り、新潟、群馬、栃木の各県旅行を旅して参りました。

1日目は、新潟市に在る国の重要文化財である旧笹川家住宅、次いで湯沢温泉スキー場のロープウェイ（乗車定員166人）に乗り絶景を楽しみ、群馬県の水上温泉の一流ホテルに泊まり、ゆったりと温泉につかり、1日の疲れを洗い流した後、大宴会場で懇親会を開き親睦を深めました。

2日目は、世界遺産に登録された富岡製糸工場（明治5年に完成）を見学、日本の近代化と外貨獲得に貢献した明治の人々を偲びました。次いでコンニャクパークを見学。工場内は自動化され、清潔な工場内にはほとんど人影はない。工場見学の後、大勢のお客で賑わうレストランで珍しいコンニャク料理を食べ（バイキング方式で総て無料）、売店ではコンニャクを使ったお土産品を買い求める。更に栃木県で、日本最古の足利学校（室町時代の創立・世界遺産登録に向けて運動中）と、国宝である鏝阿寺（ばんなじ）を見学して、所期の目的を十分に果たして、予定通りK市に全員元気で帰って参りました。

さて、今回の親睦旅行で最初に見学した笹川家住宅ですが、国の重要文化財（表門、座敷及び土間、居室部、土蔵、雑蔵、文庫、米蔵、井戸小屋、宅地等）の指定を受けている笹川家は、信濃の国から味方村（現新潟市）に移住して、昭和45年まで14代300年にわたって続いた郷農。江戸時代は8000石を束ねる大庄屋として権威をふるい、当時の藩から現在の徴税（年貢）、警察、裁判の権限まで行使していたとも言われる。国の重要文化財に指定されている建造物は勿論お屋敷も清流が取り巻き、屋敷内の庭園、そして鬱蒼と茂る木立まで、往時の大庄屋の面影を留めておりました。

ボランティアガイドさんの説明によると、城郭の様な屋敷や建物は残っているが、書画骨董品は生活の為に売却されてしまい、僅かしか残っていないとのこと。この説明を聞き、「荒城の月」を思い起しました。この曲の作詞は皆様方ご存知の土井晩翠氏ですが、その4番の歌詞には、**天上影は変らねど 栄枯は移る世の姿 映さんとてか今もなお 嗚呼荒城の夜半の月**とあります。

栄枯盛衰は世のならいとも言われていますが、笹川家住宅を見学してガイドさんの説明を聞きながら「荒城の月」の情景をしみじみと感じた次第です。

動物園・水族館・植物園のこと

今回は動物園・水族館・植物園についての話題を追ってみたい。まずは動物園だが、旭川市旭山動物園を取り上げる。この動物園がこれまでの動物園にはなかった飼育に挑戦し、マスコミにも度々紹介され、人気上昇している。冬の時期ペンギンが雪の上を散歩するイベントは有名だ。入園者数も増加し、今では年間300万人を超して全国トップクラスである。それは何故か。話は20年以上に遡るが、それまでの動物園では動物の姿形を見せることに主眼をおいた「形態展示」であったが、それを動物の自然な生態（行動や生活）を見せる「行動展示」に転換し、実施に移したのである。例えば、ペンギンのプールに水中トンネルをも設けたり、ライオンやトラが自然に近い環境の中で自由に動き回れるようにするなど、動物たちが動き、泳ぎ、飛ぶ姿を間近かで見られる施設づくりを行ったのである。また、異なる動物を同じ場所で飼育する「混合飼育」も行っている。例えば、ゴマフアザラシとウミネコ・オオセグロカモメを同じ場所で飼育するなどである。これも自然な生態に近づけようとする試みである。これらの挑戦は、動物園といえれば人間中心に考えて、人間が楽しめればいいと飼育や施設づくりをしていたのを、動物の立場に立って動物中心に考えて飼育や施設づくりを考え、併せて人間にとっても自然な生態を観察できることになるというものだ。自然な生態の観察のため、この動物園では「ライブカメラ」を設置している。カメラの種類としては、定点カメラ・追尾カメラ・動物目線カメラなどがあるが、動物目線カメラは、例えばペンギンに装着した小型カメラでペンギン目線の世界を配信するのである。このような努力によっても、サファリパークの如き野生の生態観測を実現するには限界があろうが、まだまだ動物園の進化に期待したいものだ。

次は鶴岡市加茂水族館の話題に移ろう。ご存知の方もいるだろうが、クラゲの飼育展示数が世界一の水族館として近年有名になっている。そのクラゲの展示数が常時50種類前後である。平成17年には21種類となり世界一を記録し、その地位を維持している。クラゲ展示に伴って入館者も増え。平成22年には過去最高の21万人を突破した。ではなぜ加茂水族館がクラゲに着目するようになったのか。実はこの加茂水族館、施設・展示規模も小さく、悪循環で入館者が年々減り、民間に売却されたり、閉館の危機に直面したりで、「落ちこぼれ水族館」と称される状況が20年以上続いたのである。その間村上龍夫館長他職員が悪戦苦闘しながら水族館の維持運営に努めた。その悪戦苦闘の中で平成9年、クラゲとの運命的出会いが待っていたのである。その年、経営的に追い詰められた中で

「サンゴとサンゴ礁の魚展」を企画し、実施したところ、サンゴの水槽でサンゴにくっついてきたサカナクラゲの赤ちゃんが見つかり、それを繁殖させ、飼育したのである。そして500円玉の大きさになったそのクラゲを展示したところ、入館者が大喜びで手ごたえを感じたというのだ。それで「クラゲ展示」に力を入れることになり、試行錯誤の中繁殖飼育に力を注ぎ、平成11年から本格的に展示を開始した。翌年には「クラゲ展示室」を設けて展示種類数も増え、日本一となったのである。それから5年後世界一の座を占めることになる。実は世界一になる3年前に水族館は鶴岡市に買い戻される。そして平成26年6月に大規模水槽を備えた新館をオープンしたのである。このクラゲ水族館を有名にしたエピソードがある。それは2008年（平成20年）ノーベル化学賞を受賞した下村脩氏との関係である。下村氏の受賞理由が「緑光蛍光たんぱく質」の発見にあるが、これが「オワンクラゲ」由来のものであり、このクラゲがこの水族館で飼育展示されているとの報道がなされたのである。当然入館者も大いに増えた。加茂水族館は余り着目されていない「クラゲ」で他の水族館と差別化を図ったという次第である。それがいわば思わぬ「宝に変じた」という物語ではあった。

次に小石川植物園（東京都文京区白山）を紹介しながら、薬草の存在に触れてみたい。小石川植物園は、我が国で最も古い植物園で、現在は東京大学の附属植物園で、植物学の研究・教育実習の施設となっており、植物学研究の世界的センターである。その歴史を訪ねてみると、320年前に徳川幕府によって造営された「小石川御薬園」が前身であるという。それが、明治10年東京大学が設立されると大学の附属施設にされたとのことである。ここで注目すべきは、そもそも「御薬園」であったということである。御薬園といえは、会津若松市にも御薬園がある。会津藩主松平氏の庭園であったが、その一角に各種薬草を栽培する薬草園があったのが庭園の名の由来である。また、須賀川市に「牡丹園」があるが、これも240年前、江戸時代の話で須賀川の薬種業を営んでいた伊藤祐倫が牡丹の根を薬用にしようと苗木を取り寄せて栽培したのが始まりという。江戸時代の頃は医療が普及してきており、漢方薬（生薬）の原料となる薬用草木の需要が高まっていた。その需要に応えるために「薬用植物園」が登場したのだ。歴史的には大宝律令に「薬部」というのがでてくるが、薬用植物園が最も発達したのは江戸時代である。幕府・各藩直営のものから、民間私製のもの、長崎出島の外国製のものまであり、全国に分布していた。各藩の財政事情から収入源としたところもあるらしい。朝鮮人参は特に高価で、重用されたようだ。植物園の起源から薬用植物の話になった

が、考えてみると、科学的メスが入られるはるか昔から「植物の薬としての効用」が祖先から言い伝えられてきているわけで、祖先の知恵には脱帽である。人々の生活がそれだけ自然と密接な関係にあったことを物語るものだろう。小生は残念ながら薬用植物について余り知識がない方だ。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

今月の旬 ♥ 食材

えだまめ(枝豆)

えだまめがおいしい季節。ビールのおつまみに、おやつにも喜ばれます。えだまめは豆とお野菜の両方の栄養的特徴を持った、栄養価が高いお野菜です。タンパク質やビタミンB1、カリウム、食物繊維、鉄分など、豊富に含んでいます。鉄分は、ほうれん草や小松菜よりも多く含まれています。

また利尿作用もあるので、体内の水分量を調節し、むくみ解消にも効果的と言われています。

先月に引続き…

涼と風情を呼ぶよ、
すだれ

すだれの良さは、光を遮る、外からの熱を遮る、でも風は通す…といったところでしょうか。

日本の夏を快適に過ごすための道具のひとつとして、昔から使われてきました。竹や葦(よし)を用いて作られますが、現在はプラスチックやシリコンを素材に用いた物も出ています。

また、カーテンタイプの物やロールスクリーンタイプの物も出ていて、色彩もカラフルになりました。

すだれのイメージがちょっと変わりますね。和室にだけでなく、洋室にも合うと思います。活用の幅が広がりますね。

会社近況

7月に入り、もうすでに中旬。

今月は大幅におたよりの送付が遅れてしまい、すみませんでした。

ここ数日、真夏日が続いていますね。

夜もぐっすり眠れず、お疲れではありませんか？

お体どうか大切に…

事務所ではむぎ茶とコーヒーを多めに準備し、キンキンに冷やしております。水分補給にいつでもお立ち寄りくださいね。^_^

さて、お世話になっている現場ももう少しで完成です。

沢山の方々のお力をいただき、ひとつの現場が仕上がります。

お世話になりました皆様方に感謝申し上げます。

新入社員の武田くんにとっては、初めての現場です。

解体作業から、ひとつひとつの行程を経て仕上がるまで、すべて関わることが出来、とても良い経験をさせていただいたと思います。

本当にありがたいことです。

慣れない作業に加え連日の暑さで、かなり疲れていると思いますが、

「お疲れ様です、戻りました。」

「お先に失礼します。」

と、いつも気持ちの良い挨拶をしてくれます。

これから夏本番を迎え、大変なことも色々あるとは思いますが、一緒に頑張っていきたいです。

(お知らせ)

7/20(月)(海の日) ご迷惑をおかけいたしますが、お休みさせていただきます。

.....

平成27年7月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡1-1

電話、0243-44-3816

<後記>

暑い日が続きますね。

事務所は扇風機しかないので、暑くてつらいときは、手ぬぐいをぬらして首に巻き、髪も束ね、こまめに水分を摂るようにしています。(事務員k)